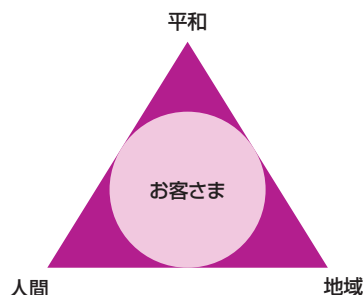


〈イオンの基本理念〉

イオン(AEON)とは、ラテン語で「永遠」をあらわします。

私たちの理念の中心は「お客さま」：イオンは、お客さまへの貢献を永遠の使命とし、最もお客さま志向に徹する企業集団です。



「平和」：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

「人間」：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

「地域」：イオンは、地域のくらしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

企業の社会的責任は、地球規模で永久に取り組むべき課題



イオンモール株式会社
代表取締役社長
川戸 義晴

当社は、自然や環境問題への取り組みをはじめ、ベストグッズの提供を通じて、「この地域にイオンショッピングセンター(SC)があってよかった」とお客さまに喜んでいただける店舗をめざしています。

ショッピングセンターの開店に際し、約3分の1にあたる店舗に、地元商店に優先して出店いただくなど、地域の雇用確保に大きな貢献をしていると自負しています。昨今の雇用情勢の変化により就労者数が著しく減少する傾向にある中で当社の事業では、1SCで周辺を含め約2,500人の雇用を創出し、主婦や高齢者など幅広い人々が就業の機会を得ることができています。

その一方、販売活動により地域にさまざまなごみなども大量に発生します。また、近隣の市町村からも大勢のお客さまがSCにいらっしゃることで車の排ガスが放出され、大気汚染への懸念も出てくるでしょう。しかし、少し広い視点で考えてみると、

車で遠くにあるそれぞれの店に買い物に出ると、さらに多くの排ガスを放出する可能性もあります。あるひとつの事象だけを取り上げるのではなく、地域の発展と環境配慮のバランスを総合的に考えながら環境への負荷を下げると同時に社会的な側面も考慮していくことが重要だと考えています。

例えば、植樹祭に参加していただくことなどでお客さまにも環境問題に関心を寄せていただき、協力して解決の糸口を探していけます。

当社の最終目標は、クリーンエネルギー導入によるエコモールです。また、ごみを資源化するゼロエミッションを徹底することは、地域に進出するときに果たすべき社会的責任のひとつでもあると考えています。すでに企業が地域で活動するためには、環境問題を無視しては成立し得ない時代です。

こうした背景から、今後の展望を明らかにするために、当社ではイオンモールSR会議(Social Responsibility：社会的責任を遂行する会議)を発足し、「社会」「環境」「コンプライアンス」の視点での企業活動を進める委員会を設立しました。社会貢献や環境保全、イオン行動規範を準拠して活動をしていきます。その取り組みの成果やサステナビリティ(持続可能性)への推進内容をまとめたものが、この「環境レポート」です。ぜひ、レポートをご覧くださいました皆さまからご意見、ご指導をいただければ幸いに存じます。

併せて別紙「笑顔の街づくりレポート」もご覧ください。

2004年6月

川戸 義晴

目次

■ イオンの基本理念・社長メッセージ・目次1

■ イオン行動規範・イオン環境理念・
イオンモール環境方針・編集方針・対象範囲2

■ 環境影響・環境法規制・物質収支3

■ 環境マネジメントシステム5

■ ゼロエミッション7

■ 地球温暖化防止・省資源9

■ 環境会計11

■ リスクマネジメント12

■ 環境教育・環境コミュニケーション13

■ ショッピングセンター(SC)のご紹介14

■ 会社概要データ22

イオンは、次代のイオンをより確かなものにするため、「イオン行動規範」を制定しました。
これはイオンの基本理念・イオン宣言を中心に「新しい時代のお客さま」のため、私たちのとるべき行動を示したものです。

〈イオン行動規範（抜粋）〉

【宣言】

- 一、イオンピープルは、常に多くの人々から支えられていることに感謝し、ひとときも謙虚な気持ちを忘れません。
- 一、イオンピープルは、人々との信頼をなによりも重んじ、いかなる時も正直で誠実な行動を貫きます。
- 一、イオンピープルは、お客さまの期待を感動に高めるため、常に自らを磨きます。
- 一、イオンピープルは、イオンの理想を実現するため、ためらうことなく変革への挑戦を続けます。
- 一、イオンピープルは、地域の発展を願い、よき企業市民として社会への奉仕につとめます。

【お客さまへの誓い】

イオンは、「すべてはお客さまのために」の視点で行動し、お客さまの日々のくらしに密着した「安心」と「信頼」を提供します。
イオンは、お客さまの生活文化に貢献することを永遠の使命とします。

【パートナーとイオン】

●地域社会とイオン

イオンは、企業市民として、地域の人々とともに、地域社会の発展と生活文化の向上に貢献する代表的な企業を目指します。

●取引先とイオン

イオンは、「お客さま満足」の実現のため、革新的な経営に挑戦する取引先を尊重します。そして公正な取引を通じ、対等なパートナーとして、お互いの繁栄を目指します。

●株主とイオン

イオンは、革新的で健全な経営につとめ、経営のパートナーである株主の皆さまに、高い株主利益を実現します。

【イオンピープルとともに】

「お客さま満足」を実現するにあたって、私たちが大切にしなければならないこと、それは、ゆるぎない人間関係と働きがいのある職場の実現です。働きがいのある職場がなければ、お客さまの満足も実現することは出来ません。それは、私たち一人ひとりが創っていくものです。

イオン環境理念

私たちイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というグループ理念のもと、企業市民としての社会的責任を果たすため、社会貢献活動と環境保全活動を積極的に推進していきます。同時に私たちは、これらの活動が地域に根ざしたものであると認識し、地域の方々とのパートナーシップを育み、循環型社会の構築を目指します。

イオンモール環境方針

イオンモール株式会社は「どこよりも美しく、楽しく、親切的なショッピングセンター」づくりをめざすショッピングセンター事業および「お客さまの安心とゆとりのためのリスクマネジメント」を推し進める保険代理店事業を柱とし、お客さまの安心、安全の確保を当社の事業活動の基本としています。

私たちイオンモール株式会社は環境保全活動の推進は当社の社会的責務であると考え、以下のとおり環境方針を定め、その履行に努めてまいります。

- 1、お客さまをはじめとするパートナーさまの生活環境の向上と、地域社会の発展と環境保全に貢献します。
- 2、環境法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を遵守いたします。
- 3、環境マネジメントシステムを構築し、事業部門ごとに目的・目標を制定し汚染を予防する体制を築き、継続的な改善を推進します。
- 4、地球温暖化防止のため、CO₂排出抑制をめざします。
- 5、地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざします。
 - ①ショッピングセンター部門は、可能な限り廃棄物のリサイクルと廃棄物の発生抑制を推進し「ゼロ エミッション ショッピングセンター」をめざします。
 - ②保険及び本社・管理部門は「紙の削減」をはじめ、循環型社会の構築に配慮した業務活動を推進します。
- 6、この方針を当社従業員に周知するとともに、当社の環境情報を公開いたします。

2004年2月26日

イオンモール株式会社 代表取締役社長 川戸 義晴

編集方針

イオンモール2004「環境レポート」は、環境保全の取り組み実績と理念をよりわかりやすくご理解いただけるよう作成しました。また、当SC及び専門店従業員啓発も目的としています。なお、本レポートは「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」(環境省)を参考にしながら、イオンモールの2003年度の活動実績を中心に記載しています。

尚、当SCに属するイオン及びイオングループ各社の環境保全活動は「イオン環境・社会報告書2004」を参照下さい。

問い合わせ先 イオン株式会社 環境・社会貢献部
TEL 043-212-6037 FAX 043-212-6790
イオンホームページ <http://www.aeon.info/>

対象範囲

- 対象組織：本社、全国16のショッピングセンター、保険・営業所
- 対象期間：2003年2月21日～2004年2月20日
(盛岡SCは、ソフトオープン後の2003年8月7日から
太田SCは、2003年12月3日からとなります)
- 対象分野：主に環境保全に関する側面
- 発行日：2004年6月
- 次回発行予定：2005年6月

※ 本報告書では、パートナーの皆さまはすべて敬称略とさせていただきます。

イオンモールと環境との関わり

開発時

大店立地法

土壌汚染対策法

建設時

省エネルギー法

建設リサイクル法

全国のショッピングモール（16SC）と本社・保険営業部における2003年度の物質・エネルギーの使用量（INPUT）と排出量（OUTPUT）の把握とそれに関わる環境関連の法規制をまとめました。その結果、2004年度の各過程における項目を洗い出しました。

INPUT

・電気①

98,069千kWh

省エネルギー法

・水道②

854千m³

・重油

25,608kl

消防法

・都市ガス

7,174千m³

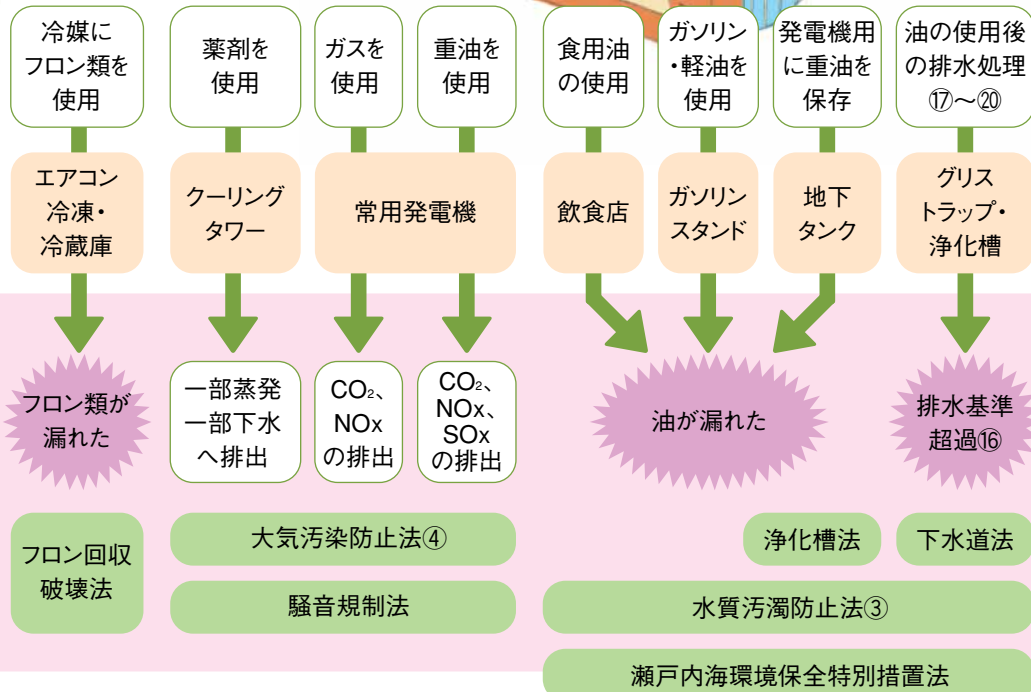
・プロパンガス

150t

高圧ガス法

・コピー用紙⑤

4,836千枚



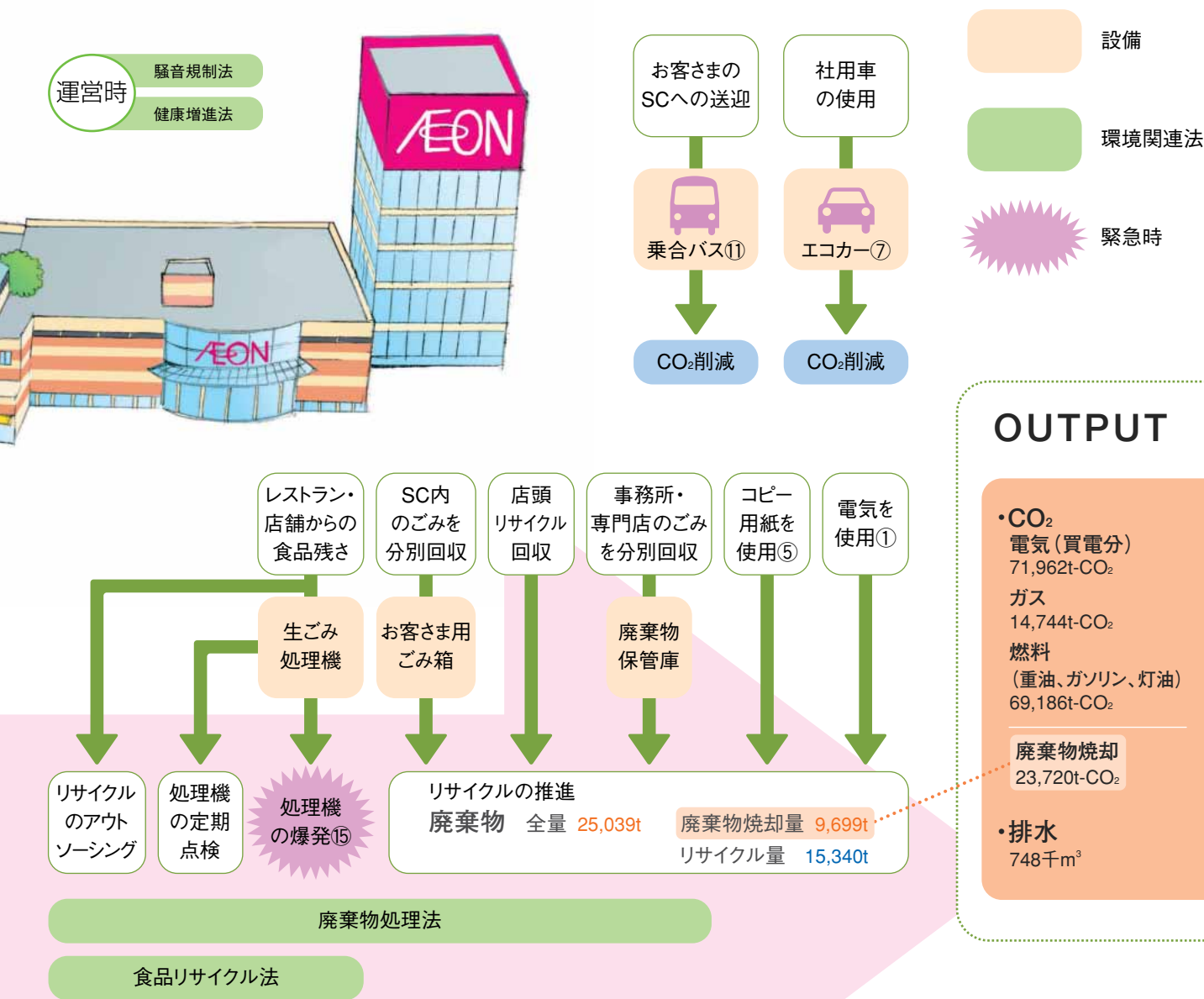
■ イオンモールの著しい環境側面

イオンモールの事業活動内における各過程での環境側面を把握し、環境保全に取り組んでいます。

● 2004年度の著しい環境側面

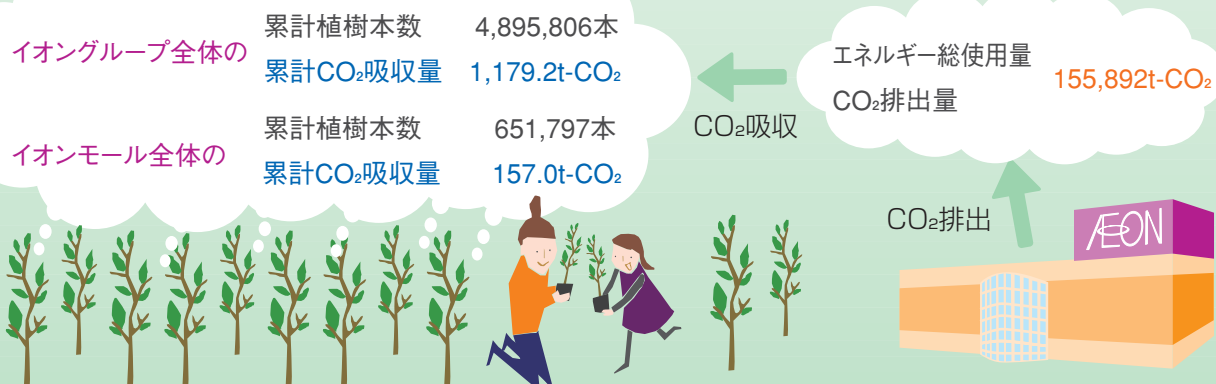
現在の業務	企画業務・ハード	ソフト	緊急事態	パートナーさま
① 電気の使用	⑧ エレベーターホール・駐輪場などの回路変更による電気削減	⑪ バス利用率の向上による車台数の削減	⑮ 生ごみ処理機の爆発事故の発生	②⑩ 自動車整備（油の使用）
② 水道の使用	⑨ グリストラップ汚泥の排出ルール	⑫ テクノ・ごみ庫・モールとのコミュニケーション向上	⑯ 浄化槽などの排水基準値超過	③⑪ フードコート（油の使用）
③ 排水による汚濁	⑩ 計量システム導入による個店単位のごみ量把握と賃料への反映	⑬ 使用量の原単位管理の検討	⑰ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	④⑫ レストラン（油の使用）
④ 排気による大気汚染	⑪ 計量システム導入による個店単位のごみ量把握と賃料への反映	⑭ 環境問題を店長会議・業種部会の議題として話し合う	⑱ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑤⑬ フードコート（油の使用）
⑤ 紙の使用	⑫ テクノ・ごみ庫・モールとのコミュニケーション向上	⑮ 生ごみ処理機の爆発事故の発生	⑳ 自動車整備（油の使用）	⑥⑭ レストラン（油の使用）
⑥ クリーンエネルギーの導入（風力・太陽光・地熱）	⑬ 使用量の原単位管理の検討	⑯ 浄化槽などの排水基準値超過	㉑ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑦⑮ レストラン（油の使用）
⑦ 社有車のエコカー導入	⑭ 環境問題を店長会議・業種部会の議題として話し合う	⑰ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉒ 自動車整備（油の使用）	⑧⑯ レストラン（油の使用）
⑧ エレベーターホール・駐輪場などの回路変更による電気削減	⑮ 生ごみ処理機の爆発事故の発生	⑱ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉓ 自動車整備（油の使用）	⑨⑰ レストラン（油の使用）
⑨ グリストラップ汚泥の排出ルール	⑯ 浄化槽などの排水基準値超過	⑳ 自動車整備（油の使用）	㉔ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑩⑱ レストラン（油の使用）
⑩ 計量システム導入による個店単位のごみ量把握と賃料への反映	㉑ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉒ 自動車整備（油の使用）	㉕ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑪⑲ レストラン（油の使用）
⑪ バス利用率の向上による車台数の削減	㉒ 自動車整備（油の使用）	㉓ 自動車整備（油の使用）	㉖ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑫⑲ レストラン（油の使用）
⑫ テクノ・ごみ庫・モールとのコミュニケーション向上	㉓ 自動車整備（油の使用）	㉔ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉗ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑬⑲ レストラン（油の使用）
⑬ 使用量の原単位管理の検討	㉔ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉕ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉘ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑭⑲ レストラン（油の使用）
⑭ 環境問題を店長会議・業種部会の議題として話し合う	㉕ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉖ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉙ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑮⑲ レストラン（油の使用）
⑮ 生ごみ処理機の爆発事故の発生	㉖ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉗ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉚ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑯⑲ レストラン（油の使用）
⑯ 浄化槽などの排水基準値超過	㉗ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉘ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉛ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑰⑲ レストラン（油の使用）
⑰ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉘ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉙ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉜ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑱⑲ レストラン（油の使用）
⑱ レストラン（油の使用）	㉙ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉚ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉝ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㉚ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉛ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉞ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㉛ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉜ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉟ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㉜ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉝ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊱ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㉝ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉞ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊲ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㉞ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㉟ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊳ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㉟ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊴ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊵ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㊱ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊶ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊷ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㊲ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊸ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊹ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㊳ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊺ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊻ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㊴ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊼ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊽ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）
⑲ フードコート（油の使用）	㊵ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊾ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	㊿ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	⑲⑲ レストラン（油の使用）

2003年度の著しい環境側面に関しては、特に大きな不適合はなく、今後もこれらの環境側面を正確に認識し事業に取り組んでいきます。



※①～⑮は3ページ下のイオンモールの著しい環境側面の番号に連動しています。
 ※物質収支は、原則として、SC全体使用量から専門店使用量を引いた、SC使用量(共用部のみ)となります。
 ※電気は、買電と重油・ガスによる発電になります。重油・ガスの一部は発電以外にも使用されるためCO₂排出量合計が電気総使用量のCO₂排出量にはなりません。

木を植えたり、リサイクルすることで事業活動の中で排出しているCO₂を吸収し、騒音を低減させる効果があります。



全従業員で、環境保全活動に取り組んでいます。

環境に与える負荷を最小限にするため、環境マネジメントシステム（EMS）を構築し、日々環境保全に取り組んでいます。
今後もさらに改善をして、環境との調和を図った事業を行っていきます。



羽間 和彦
常務取締役 SC営業本部長

原単位設定を目標に、ISOをより推進していきます。

2003年度の取り組みの中で非常に難しかったのは、電気、水道の使用量を減らすことでした。SCの運営という立場上、集客数を上げることは我々の使命です。増床や営業時間延長に伴い、電気や水道の使用量も増加し、前年度比何%削減という目標達成が難しくなります。そうすると責任感を持っている従業員やテナントさんのやる気を削いでしまいます。2004

年度からは原単位*1設定を目標に定めて、ISOをより推進していきたいと思います。

2003年のイオン大和SCの事故は、大変申し訳ない結果となってしまいました。しかし、この事故によって環境問題が後退してしまうことのないよう、反省と改善を重ね、「安全に絶対はない」ということを肝に銘じて取り組んでいきたいと思っています。（イオン大和SCの事故は12ページ参照）

※1 9ページ参照

2003年度 環境目的・目標と実績

2003年度 EMSの範囲

駐車台数／約50,800台 来客数／年間約1億4625万4千人
従業員数（本社・保険営業部を含む）／約326人 専門店の従業員数／約27,842人



目的・目標	担当	実績	自己評価
1. 2003年度までに電力使用量を2002年度対比5%削減します。	SC営業部会 羽間常務	倉敷・岡崎SCでインバーター制御装置を導入し実験を行った結果、一定の成果がありました。	観察 104.6%
2. 2003年度までに水道使用量を2002年度対比5%削減します。	SC営業部会 羽間常務	トイレ水量調整等実施しましたが、来店客数が大きく伸び目標は達成できませんでした。	観察 105.9%
3. 2003年度までにコピー使用量を2000年度対比20%削減します。昨年度目標対比10%削減します。	管理部会 藤井常務	2000年度対比6SCが新設されたにもかかわらず大幅削減達成しました。プロジェクターの使用等で、本当に必要なもののみのコピーが実行されています。	達成 84.3%
4. 2003年度までにコピー用紙使用量を2000年度対比30%削減します。昨年度目標対比8.5%削減します。	管理部会 藤井常務	コピー以外のプリンター・ファックス等の使用量が増大していると思われ2.1%超過しました。	観察 102.1%
5. 廃棄物の削減をめざします。 (1)「ゼロエミッションショッピングセンター」をめざします。 (リサイクル率100%) (2) 保険部会は「紙の削減」をめざします。	SC営業部会 羽間常務 保険部会 岡崎常務	(1) ゼロエミッションは不適合でしたが、各SC別のリサイクル量の把握や計量システムの導入等、基盤整備が進みました。 (2) 業務改革の推進により成果はありましたが、契約数増に対応しきれず紙使用量は増加しました。	(1) 不適合 63.5% (2) 不適合 116.2%(コピー用紙使用量)
6. 全従業員に事故・緊急事態の想定を教育します。	管理部会 藤井常務	全従業員に緊急事態対応ビデオ教育を実施しました。	達成
7. 全部署より、準内部監査員を1名以上育成します。	管理部会 藤井常務	全部署に内部監査員1名以上配置できました。	達成
8. 環境会計を導入します。	管理部会 藤井常務	施設管理・建設・開発・日常業務に分類し集計する基準を作成しました。	達成

部会 環境管理責任者	目的・目標	実績	自己評価
1. SC開発部会 横田常務	(1) SC開店時に、環境配慮がわかる表示をします。 (2) 規制対応や環境配慮などに関する情報の、次への伝達ルールを定めます。	(1) 高岡SCから実施し、エコバスターやエコベンチ等を導入し表示しました。 (2) 高知SCから竣工引継ぎ書に項目を追記しました。	(1) 達成 (2) 達成
2. SC営業部会 羽間常務	(1) 法規制対応への独自基準を制定します。 (2) 後方業務を改善し、標準化を推進します。	(1) 制定しました。 (2) 後方業務改革P/Tを発注し推進しましたが文書化等が今後の課題です。	(1) 達成 (2) 観察
3. 保険部会 岡崎常務	(1) 内務処理を改善し、紙を削減します。	(1) 内部処理の業務改善効果はありましたが契約増に対応できるまでには至りませんでした。	観察
4. 管理部会 藤井常務	(1) 環境情報を発信し、社外コミュニケーションを促進します。 (2) 環境情報を共有化し、社内コミュニケーションの向上をめざします。	(1) 明治乳業さま本社等でISO推進担当者が事例発表を行いました。 (2) 環境委員会でご報告を部会事務局が行うようにし実行しました。	(1) 達成 (2) 達成

削減目標 → 達成＝超過率が100%未満 観察＝超過率が100%以上～106%未満 不適合＝超過率が106%以上 超過率＝実績÷目標×100
実施目標 → 達成＝計画とおりに実施 観察＝計画とおりに実施したが終了できず状況を観察する 不適合＝計画とおりに実施しなかった

ごみゼロのショッピングセンターをめざして

イオンモールがめざすショッピングセンターは、すべての廃棄物をリサイクル資源とする「ゼロエミッション ショッピングセンター」です。限られた資源を有効に活用し、私たちの地球環境を保全するため、Reduce（減らす）Reuse（再利用）Recycle（再資源化）の3Rを基本に、専門店さまやお客さまとともに循環型社会の構築をめざしています。

■ ごみゼロは、分ける、循環させる、そして減らすことから

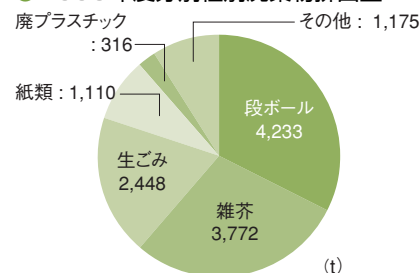
当社ではごみを17種類に分別しています。分別・リサイクルされたごみは再び資源となり循環します。ビン、缶、ペットボトルなどは再び製品に生まれ変わり、生ごみは土壌改良材に。

また、各専門店では使い捨てだったハンガーを回収したり、梱包を簡素化した

りと、それぞれごみを減らす取り組みをはじめています。

すべてのスタッフがごみの分別方法をはじめとする環境について学び、ごみゼロに向けた活動を継続して行っています。

● 2003年度分別種別廃棄物排出量



● ごみ削減のためにごみの計量を行っています。



① 飲食店でのごみの分別

紙類、プラスチック、ビニールなど、そして割り箸もきちんと分けています。

食べ残しや調理時に出る生ごみはボックスで廃棄物保管庫へ。割り箸、紙くずなどが紛れないように混入物を取り除きます。

取材協力：盛岡SC「びんびん舎」



■ 生ごみの地域循環システムを構築しています

生ごみ処理機を14SCに導入しています。手作業で混入物が除去された生ごみは土壌改良材に。SC敷地内では、その土壌改良材を使って地域の環境に合った木を植えています。また、お客さまにも畑や庭での園芸にお使いいただいています。



② ごみの計量システムで排出量を把握します

分別したごみの重さを量り、店舗のバーコードをスキャンして登録。これで店舗ごとに、どんな種類のごみがどれだけ出ているのかを把握することができます。こうしたデータをフィードバックすることで、さらにごみの削減につなげていきます。

※ ごみの計量システムを導入しているのは、新居浜SC、大和SC、高岡SC、盛岡SC、太田SCの5SCです。



③ ごみ保管庫

ビン、缶、ペットボトル、段ボールなどごみの種類ごとに保管します。きちんと分類すればごみも資源に生まれ変わります。



■ 17種類のごみと資源(処理)のゆくえ

1 生ごみ ➡ 土壌改良材	7 発泡スチロール ➡ ビデオカセット	12 廃蛍光灯 ➡ 水銀、断熱材
2 段ボール ➡ 段ボール	8 廃油 ➡ 燃料、肥料、せっけん	13 廃電池 ➡ 鉛、鉄、水銀をリユース
3 雑芥 ➡ 燃やすごみ（分別を進めて減らします）	9 紙類 ➡ 新聞紙、OA紙、カタログ	14 割り箸 ➡ トイレペーパー
4 廃プラスチック ➡ マンホールのふた、文具	10 粗大ごみ ➡ 解体して部品をリサイクル	15 廃アルカリ・剥離剤 ➡ 廃液を防御し保管後、適正処理
5 ビン ➡ ビン	11 その他不燃ごみ ➡ 燃やせないごみ（分別を進めて減らします）	16 汚泥 ➡ グリストラップからの汚泥は設備管理会社が処理
6 缶 ➡ 原料（アルミ、スチール）		17 廃エンジンオイル ➡ 専門業者が処理

■お客さまとともにリサイクルを進めています。

ショッピングセンター内で出るごみは、お客さまにご協力いただいて分別をしています。

缶、ビン、燃やすごみ、燃やさないごみの回収ボックスを設置し、フードコートでは割り箸の回収も行っています。



店頭の回収ボックス

また、缶、食品トレイ、牛乳パック、ペットボトルなどの回収ボックスを店頭にも設置し、お客さまにお持ちいただきリサイクルします。アルミ缶は台所用品へ、食品トレイは文具へ、牛乳パックはトイレトーパーへ、そしてペットボ



専門店さまにもご協力いただいて分別回収しています

トルは再生繊維へと生まれ変わります。地域全体での循環型社会の構築をめざして、お客さまをはじめパートナーさまとともにリサイクルを進めていきます。

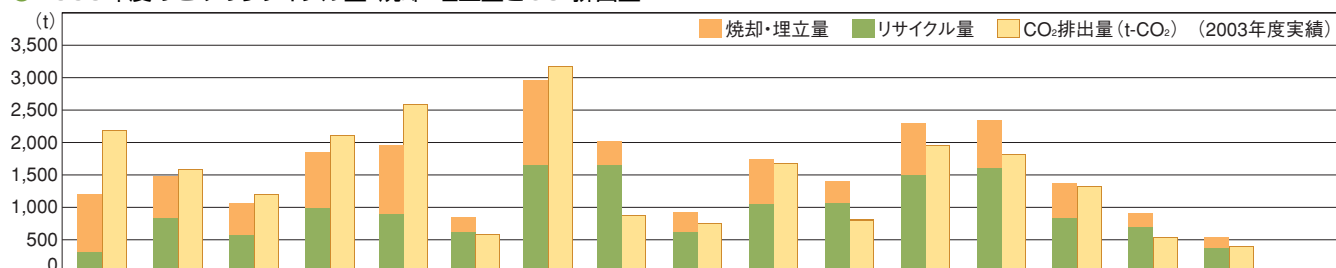


従業員の一般制服やインフォメーションカウンター用の制服は、どちらもペットボトルの再生素材で作られたものです

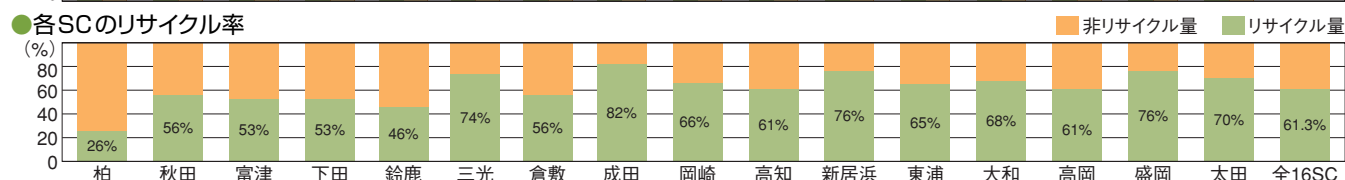
■各SCのリサイクル率の向上をめざします。

ごみの計量によって各項目の排出量を把握し、それをフィードバックすることで、さらなるごみの削減につなげていきたいと考えています。

●2003年度のごみのリサイクル量・焼却・埋立量とCO₂排出量



●各SCのリサイクル率



📊 ごみの計量システム導入済みSC ※ 盛岡SCは2003年8月から、太田SCは2003年12月から計量開始

食材は無駄なく使いごみを出さないようにしています。

当店はナポリ風のピッツアや生パスタを提供するイタリア料理店です。イタリア料理は油を多く使います。そこでさっぱりとした中国茶とオーガニックのハーブティーを新しく出すようにしたところ、食後にとてもいいとお客さまに喜んでいただいています。

イオンモールに出店してから、ごみの分別と下水を汚さないためのグリストラップの掃除を徹底的に行うようになりました。飲食店では生ごみの分別が大変。食べ残しの中にはおしぼりなどの紙片が

入っていたり、料理に欠かせないあさりや殻などが混じっているので手間がかかります。堆肥化できるものとできないものを判断するのが難しいですね。少しでもごみの減量化をするため、野菜くずや魚の骨などもスープやだしに無駄なく使い、仕入れの梱包を簡素化するなどの工夫をしています。



星野 智生
イオン太田SC
伊太利屋食彩 Aroma Vita 店長

一步一步、環境負荷を減らしています。

ショッピングセンターの維持管理を行う上で各SCの特性などを考え、環境保全活動に取り組んでいます。SC数の増加などの要因がありますが、今後も一つ一つの問題を模索しながら環境負荷削減に力を入れていきます。

■ エネルギー原単位の設定に向けて

CO₂の排出を削減していくために、イオンモールではエネルギーを大切に使います。各SCでは自然の光を活かした施設づくりを採用していますが、四季の自然光の変化により年間通してのエネルギー使用量は、日々変動しているのが現状です。

毎年、SC数の増加や、各SCの営業時間の延長、施設の増床、



やわらかい陽の光を浴びながらショッピング

保険の契約数増加等などが要因となり、2003年度も電気、水道、コピー使用量、コピー用紙の使用量の原単位を設定するには至らず、とても悩ましい問題となっています。

電気と水の使用量については、適用範囲が2003年度と同じ規模にならない場合は全社の目標値から外し、さらに目標数値の

設定を2000年度対比から2002年度実績対比の設定に変更したことにより、目標に近づけることができました。

今後はそれぞれの活動における原単位を設定し、削減目標を立てて達成できるよう取り組んでいきます。



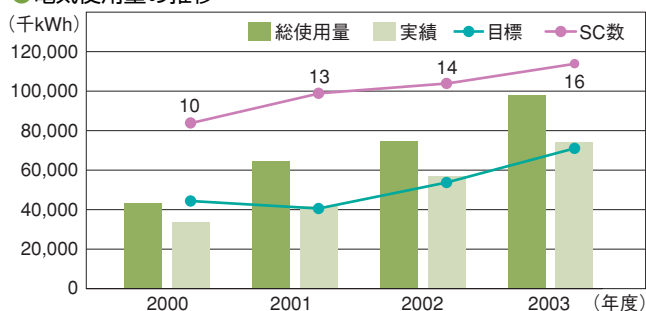
降り注ぐ光の加減により表情を変えるSCデザイン

■ 電気使用量の目標を達成しました。

2003年度は倉敷SC、岡崎SCでインバーター制御装置を実験的に導入し、倉敷SCは99.3%、岡崎SCは99.4%を達成し、全社では104.6%の観察となりました(目標設定については5ページを参照ください)。

今後は、電気回路を見直すなど従来のソフト面からハード面までを含めたエネルギー使用量の削減手法を開発し、エネルギー管理を徹底して行っていきます。それとともに、太陽光発電などクリーンエネルギーの導入も検討し、地球にやさしいイオンモールをめざしていきます。

● 電気使用量の推移



大気汚染物質の削減に向けて

発電機やボイラーなどからCO₂、NO_x(窒素酸化物)、SO_x(硫黄酸化物)が大気中に排出されています。これらの大気汚染物質は、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨など環境にさまざまな影響を及ぼします。事業活動における排出量を把握することで、省エネルギーの取り組みや

エコカーの導入、各SCの近隣駅からの乗り入れバスの運行、また地域のパーク＆ライドへの駐車場(東浦SC)の提供など、大気汚染物質の削減に取り組んでいます。

各SCのお客さまの足となっている乗り入れバス



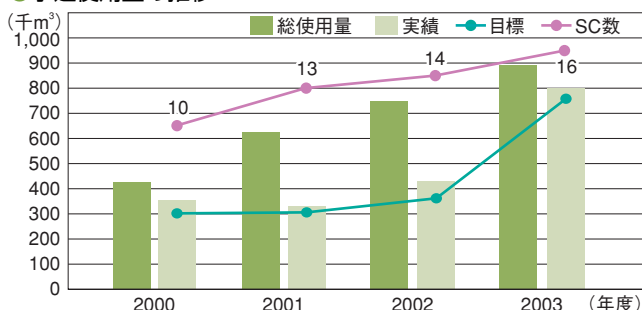
■ 貴重な水を節水する努力をしています。

当社では、水のほとんどがお客さま用トイレで使用されています。2003年度は来客数の増加により、目標を達成することができませんでした。今後は、水の有効利用として各SCに節水設備を導入するなどの取り組みを行っていきます。



節水実験トイレでの呼びかけを掲示しています

● 水道使用量の推移



■ 排水検査を強化し、水質に配慮しています。

2003年度は、ノルマルヘキサン(動植物油)の排水基準値の超過が多発しました。水との関わりを考え、水質を維持するために、当社では排水検査を毎月実施し、原因調査を行いました。油を多く使用するレストラン街やフードコートの専門店さまにご協力いただいて、排水に含まれる油脂を除去するグリストラップの毎日・毎週の清掃、毎月の汚泥引き抜き、点検を行っています。

清掃教育の徹底を図るため、東浦SCではテナント・個店別に排水の水質検査を実施しました。今後は、こうした取り組みを広げ、教育を徹底しグリストラップの清掃基準を制定していくとともに、浄化槽検査の強化も行い、当社排水管理基準の完成に向けて取り組んでいきます。



飲食テナントさまへの教育風景

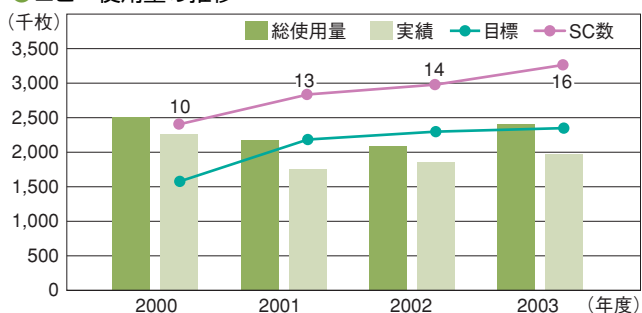
■ 無駄をなくすことでコピーの使用を減らしています。

まずは不要なコピーを減らすことから始めました。社内資料は裏紙を使い、会議ではプロジェクターを利用して各自が必要な部分のみをコピーするようにしています。

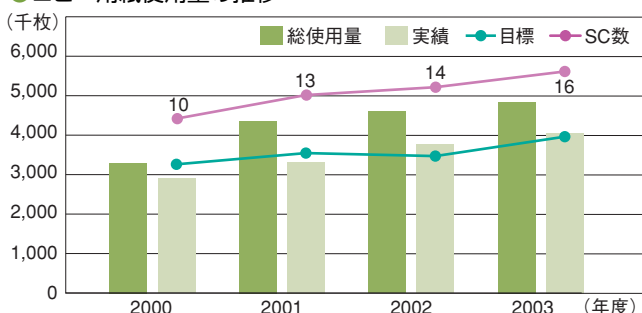
こうした努力が進んだ結果として、コピー使用量は大幅に目

標を達成しましたが、コピー用紙使用量は観察となり、今後は、コピー以外でのプリンター・ファックス等用紙の用途別の使用量を把握し、その削除手順を設定し対応します。

● コピー使用量の推移



● コピー用紙使用量の推移



環境家計簿で家庭からの環境負荷も減らしています。

2003年度は従業員をはじめ、防災センター、清掃担当者も参加し、総勢120名が環境家計簿をつけました。電気、ガス、水道、灯油、ガソリンなどを毎月どのくらい使用しているか、ごみをどのくらい出しているかをチェック。自分の出すCO₂を把握することで、意識して減らすこと

を習慣づけ、環境にやさしいライフスタイルを実行しています。参加者には、参加賞としてリユースできるマグカップと洗剤のいらないスポンジをプレゼントしました。



経営資源をSCの環境保全活動に

環境保全のコストと効果を定量的に把握するために、2002年度より環境会計を導入しています。コスト集計を行い、より効率的な環境経営を進めていきます。

● 2003年度の環境保全コストとその効果

環境取組みとその効果	単位：千円			参照ページ
	2003年度(16SC)	2002年度対比	2002年度(14SC)	
新SCでの投資、及び新たな取組み	588,807	539.4%	109,160	
新SCでの新たな調査（調査費用発生と開店年度のズレによる差異が発生しました。2005年からは新店開店時に一括計上していきます。）	27,300	81.7%	33,400	笑顔の街づくりレポート
環境配慮資材を建設資材として積極的に導入し2002年度対比1435%と飛躍しました。リサイクル素材として336.4トン使用し、資源の保全と廃棄物の削減となりました。	297,886	1434.9%	20,760	
ペットボトルのリサイクル（エコ・タペストリー・リサイクルコンに利用：約0.58トン、12,442本（500ml換算））	8,687	263.2%	3,300	下記右写真
間伐材などの木材のリサイクル（エコステーションベンチ・外装材などに利用：約1.82トン）	5,610	1219.7%	460	下記左写真
その他のリサイクル（廃タイヤ・アルミ缶・溶融スラッグ・CDをリサイクル：約332.5トン）	31,844	187.3%	17,000	
ワックス不要タイルの利用による剥離剤（産業廃棄物・廃アルカリ液）の削減（剥離剤1,479リットル）と、使用後のリサイクル	251,744	新規取組み		
健康増進法に対応し、柏・富津・岡崎・高知・盛岡・太田SCで分煙のため喫煙室を設置しました。	44,292	新規取組み		
ソフト面での省エネ・省資源からハード面の実験を開始し、省エネインバーターを岡崎・倉敷SCに導入し、水資源節減のため節水機器を富津・倉敷・太田SCに導入しました。	8,922	新規取組み		
省エネインバーターの試験導入	5,751	新規取組み		環境レポート17ページ（イオン倉敷SC編）
節水機器の導入	3,171	新規取組み		環境レポート10ページ
イオンで推進している「ふるさとの森づくり」植樹祭を実施し81,077本を植樹しました。2002年は、44,726本でした。	210,407	382.6%	55,000	環境レポート4ページ
全社にかかる費用、既存SCにかかる投資及び費用	884,374	116.4%	760,036	
イオン1%クラブ拠出金（税引前利益の1%を拠出しています。但し、1%クラブの事業年度が当社と異なるため、実績ベースの拠出額を計上しています）	48,016	131.3%	36,578	笑顔の街づくりレポート24ページ
環境管理、及び環境教育。環境内部監査員は既に96名の育成済で全ISO推進責任者・担当者は受講済です。今後は従業員教育のカリキュラムに組入れ育成していく予定です。またテナント従業員さまへの分別教育を中心に資材等を投入しました。	14,888	119.7%	12,434	環境レポート5-6ページ、10ページ、13ページ
古紙のリサイクル製品の購入（トイレットペーパー類・OA用紙：約221トン）	50,219	133.3%	37,673	
SCの植栽のメンテナンスや調整池の設置等の費用です。	127,577	107.5%	118,633	環境レポート4ページ、21ページ（イオン太田SC編）下記中央写真
SC施設メンテナンス。下水道管理の徹底のため、毎月の水質検査実施と水質保全用備品の整備を行いました。また常用発電機の売却によりメンテナンス費用が減少しました。	311,551	114.4%	272,330	
常用発電機、ボイラー、冷水水発生機の保守点検など大気汚染防止法への対応	242,421	107.8%	224,800	環境レポート9ページ
下水道への排水設備メンテナンスの強化と水質検査の徹底をしました。	65,903	145.1%	45,405	環境レポート10ページ、19-20ページ
省エネ法該当SCが増加しエネルギー管理員・電気主任技術者への手当が発生しました。	3,227	151.8%	2,125	環境レポート13ページ
SCでの廃棄物処理とリサイクル リサイクル率61.3%（昨年度リサイクル率60.3%、2002年度対比1%向上）	329,482	116.7%	282,388	環境レポート7-8ページ
廃棄物の適正処理（一般廃棄物、産業廃棄物、及びそのリサイクル）	275,702	114.3%	241,245	
生ごみ処理機の設備メンテナンスです。年間約2,186トンを生ごみ処理機でリサイクルしています。	23,151	129.7%	41,143	環境レポート17ページ（イオン成田SC編）
廃棄物保管庫のメンテナンス費用。分別や計量システムの指導を行っています。	30,232			環境レポート20ページ（イオン大和SC編）
本社OA用紙の溶融処理	432	未集計		
本社での文具のリユース（ファイル類の再利用）	▲34	新規取組み		
SCでの事故緊急事態の予防・対応 油漏出事故を想定し、訓練の実施や、予防備品を整備しました。	2,641	未集計		環境レポート3-4ページ
油漏出の事故や緊急事態に対応する器具や備品の購入を集計しました。	2,465	未集計		環境レポート16ページ（イオン三光SC編）
生ごみ処理機爆発事故に対応し防災センター内に警報機を設置し安全対策を講じました。	176	新規取組み		環境レポート12ページ
合 計	1,473,182	169.5%	869,196	

●算出方法：「環境会計ガイドライン（2002年版）」・「環境会計ガイドブック 2002年版」（どちらも環境省）に準拠。

●期 間：2003年2月21日～2004年2月20日 ●範 囲：イオンモール（株）ISO14001適用範囲とします。

●計上基準：①複合コスト…環境目的以外のコストと結合している場合についても、原則として全額計上しています。

②人件費…イオンモール従業員の人件費は計上していません。但し、「SC施設メンテナンス」、「SCでの廃棄物処理とリサイクル」には外部人件費を計上しています。

③投資…期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額を計上しリース契約の場合は、費用に計上しています。

④減価償却費…減価償却費は計上していません。

●注意事項：効果は、物量効果で表現しています。パフォーマンス等の詳細については、環境レポートの各項目に記載してあります。

「イオン1%拠出金」は、2002年度の社会・環境報告書では算出していませんでしたが、2003年度追加計上しました。

「SC施設メンテナンス 常用発電機、ボイラー、冷水水発生機の保守点検などの大気汚染防止法への対応」は2002年度数値を修正しました。



買物の途中に間伐材を利用したエコベンチでちょっと一息



SC内に緑の潤いをもたらせている植栽



ペットボトルをリサイクルしたエコタペストリー

イオン大和ショッピングセンターにおける事故について

2003年のイオン大和SCの事故は、大変申し訳ない結果となってしまいました。しかし、この事故によって環境問題が後退してしまうことのないよう、反省と改善を重ね、「安全に絶対はない」ということを肝に銘じて取り組んでいきたいと思ひます。

2003年11月5日早朝、イオン大和ショッピングセンター（神奈川県大和市）の生ごみ処理施設で爆発事故が発生しました。核店舗であるジャスコ大和鶴間店に設置されていた生ごみ処理機から原因不明の煙が発生し、消火活動をはじめた約10分後に爆発が起きたものです。消防士や警察官計11名が負傷（うち3名が入院）、建物も一部損壊しました。

近隣住民の方々をはじめ、お客さまや関係諸官庁等にも多大なご迷惑・ご心配をおかけしたこの事故は、2004年3月末日現在も警察・消防等により原因を調査中ですが、イオングループでも事故直後からその原因に対して、安全工学協会に依頼し、自主的に調査を進めています。

また他店に既設の生ごみ処理機については、各店の運用手順をはじめとするさまざまな情報を本社で集約し、さらにイオン(株)本社で再確認するなど、事故を絶対に繰り返さない、徹底した体制づくりを進めています。イオングループでの食品廃棄物のリサイクルは、社会的に重要な課題と認識し、これからも「食品リサイクル法」で定められた登録再生利用事業者などとの連携によるリサイクルの推進や、自社での生ごみ堆肥化など、最適な方策を選択し課題解決に取り組んでいきます。被害者の方々と関係各位、お客さまと社会に再々お詫び申し上げるとともに、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。



イオン大和SC全景

生ごみ処理施設爆発

大和のガス充満か、11人けが

5日午前5時10分ごろ、神奈川県大和市下鶴間一丁目、「やまとオーキシティ」イオン大和ショッピングセンター「ジャスコ大和鶴間店」南側の建物内にある生ごみ処理施設で爆発があった。吹き飛んだコンクリート片や爆発による熱などで消防活動に入っていた同市の消防隊員や大和署員ら合わせて11人が顔や足などにけがをした。うち消防士1人は胸の骨が折れるなどで重傷。

（15面に関係記事）

大和署では、生ごみ処理施設内にガスが充満し、何らかの原因で引火したのではないかとみて調べている。

イオン本社広報によると、生ごみ処理施設は昨年11月の同センター開店時に導入した。野菜くずなどを発酵させ、肥料に変える仕組み。処理機は高さ約2.8メートル、幅約2.8メートル、奥行き約8メートルで、4日に通常点検した際には異常はなかったという。現場は、市役所と道路を隔てた北隣で、住宅街に近い。

2003年11月5日 朝日新聞 夕刊

一人ひとりの気づきが環境活動の原動力です。

イオンモールでは一般的な環境教育に加え、ISO14001 内部監査員研修、イオン行動規範研修などを行っています。つねに学び続けることが、環境活動をはじめとする社会的責任を認識しさらに前進させます。

■ 視野が広がったことに感謝しています — 2003 年度優秀フレックス社員賞受賞 —

受賞の知らせを聞いたときにはびっくりしてしまって、涙がボロボロ流れました。嬉しいのが半分、でもあとの半分はなんだか申し訳なくて。いつも周りの皆さんに、いろいろ教えてもらっているのに、私なんか賞をいただいているのかと思いました。

環境準内部監査員養成セミナーに参加したのは、上司にすすめられたからです。セミナー自体は判かりやすいものでしたが、知らなかった人に多く会えて、とても勉強になりました。普段、仕事に追われて気がつかなかったことを教えてもらえて、感謝しています。

ISOに携わったことで、視野が広がったと感じています。これからは、私が身につけたことを皆に教えてあげて、少しでも役に立ちたいと思っています。



坂本 美智子
イオン柏SC

■ 環境の専門家を育てています。

環境への取り組みには、思いだけではなく専門的な知識も必要です。当社では現在、環境マネジメントシステムが適切に運用されているかどうかをチェックするISO14001内部監査員と省エネルギー法に定められているエネルギー管理員の育成を重点的に進めています。

ISO14001内部監査員研修は2003年度20名が修了し、累計96名にのぼっています。2003年度からは準内部監査員の養成セミナーを新設し、30名が修了しました。

エネルギー管理員(電気・熱)は、一定以上の電力を使用する事業所では選任しなければならないことが省エネルギー法で定められています。当社では半数以上のSCで必要となっており、

すべての管理課長がエネルギー管理員を取得することを目標に定めています。

今後、その他の公的資格の取得も進めていく予定です。

● 環境に関する専門的な資格取得者・研修受講者数

	管理	保険	SC 開発	SC 営業	小計
ISO14001 内部監査員研修修了	15	16	15	50	96
ISO14001 準内部監査員	5	2		23	30
エネルギー管理員第一・二種(熱)				9	9
エネルギー管理員第一・二種(電気)				7	7

■ さまざまなパートナーとの対話を大切にしています。

当社の事業はお客さまをはじめ、多くの人々によって支えられています。専門店企業さま、その従業員さま、地域社会、お取引先さま、株主・投資家の皆さまをパートナーと決めました。当社は、企業の社会的責任を果たすために、何をすべきかを常に問い続けています。社会のニーズに応え、店頭での「ご意見承りBOX」やホームページなどのさまざまなツールを活かしてコミュニケーションを円滑に進めています。



● 社会・環境報告書、環境通信

社会貢献及び環境活動の取り組みを開示

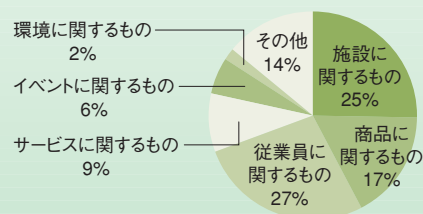
● イオンの森通信

最新のお買い物情報やお客さまの声などをSCごとに発行



お客さまのご質問やご意見

2003 年度に寄せられたご意見の内容



各SCに設置されている「ご意見承りBOX」に寄せられたすべての声に「ご意見・お返事公開ボード」を通じてお答えしています。2003年度は12,028件寄せられました。

私たちは、地域に愛されるショッピングセンターをめざします。

全国各地にショッピングセンターを創りはじめ、2003年度で16SCとなりました。

これからも地域の皆さまにより親しんでいただけるよう、環境や社会活動に取り組んでいきます。

※ CO₂排出係数は平成11年環境庁「環境活動評価プログラム エコアクション21」より引用しています。

イオン柏SC

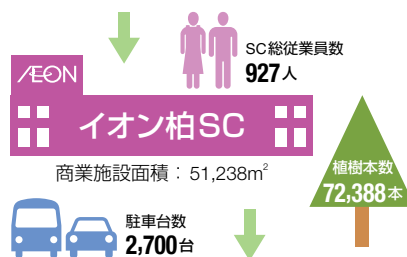
開店日：1992年11月28日
所在地：青森県西津軽郡柏村大字稲盛字幾世41
連絡先：☎0173-25-3450
URL：http://www.aeon-kasiwa.com

小集団活動の成果は抜群

当SCでは、事務所内の専門店従業員さま、後方施設従業員さま（清掃担当者など）を含め、「小集団活動」として新聞・雑誌・本のリサイクルを毎月2回行っています。2003年度の目標2,069kgに対して2,970kgを回収しました。事務所内に回収ボックスを設置し、月1回、専門業者さまに回収していただいています。回収したものはすべて記録。これらを保管している期間中、雑誌や旅行会社のパンフレットを中心にリユースされる傾向があります。

こうした些細な取り組みを行うことで、従業員の環境への意識が深まることを期待しています。

IN-PUT	
電気（千kWh）	3,706
プロパンガス（t）	30
重油（千kl）	2,223
ガソリン（l）（イオンモール社用車）	560
上水道（m ³ ）	19,092
工業用水（m ³ ）	0



OUT-PUT	
エネルギー（t-CO ₂ ）	7,611
下水（m ³ ）	0
廃棄物（t-CO ₂ ）	2,203



種類によって回収箱を設置しています



回収したものを記録表に書きとめておきます



村山 悦朗
イオン柏SC
ゼネラルマネージャー

イオン秋田SC

開店日：1993年9月10日
所在地：秋田県秋田市御所野地蔵田1-1-1
連絡先：☎0188-89-6500
URL：http://www.aeon-akita-sc.com

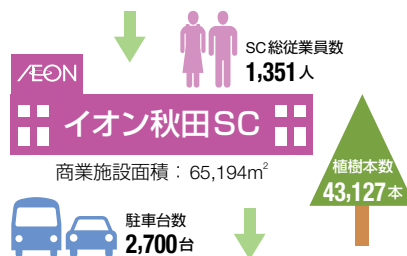
些細な報告で環境意識改革

出勤者全員が参加する朝礼を通じて、環境への意識を全員が共有し、一人ひとりが業務の中で何をしなければならないかをつねに意識させるようにしています。具体的には、業務の中で使用する裏紙利用の頻度やSC内の空調温度設定（年間通して25度）を呼びかけています。またシュレッダー後の紙くずを徹底して分別し、廃棄する際のコストも削減するよう呼びかけています。

外部の環境問題にも意識を根付かせるように、市役所から法規制などの現状を聞き、それを従業員へ報告しています。

本当に小さな取り組みですが、従業員の環境意識を根付かせています。

IN-PUT	
電気（千kWh）	5,990
都市ガス（千m ³ ）	9
重油（千kl）	4,239
ガソリン（l）（イオンモール社用車）	652
上水道（m ³ ）	31,617
工業用水（m ³ ）	0



OUT-PUT	
エネルギー（t-CO ₂ ）	15,002
下水（m ³ ）	31,796
廃棄物（t-CO ₂ ）	1,595



朝礼の際に、パワーポイントなどで現状報告を行っています



藤原 雄三
イオン秋田SC
ゼネラルマネージャー

イオン富津SC



指差し確認で手順通りにコピーを実行しています



伊藤 眞
イオン富津SC
ゼネラルマネージャー

開店日：1993年9月25日
所在地：千葉県富津市青木土地区画整理地内200街区
連絡先：☎0439-80-1700
URL：http://www.aeon-futtu.com

コピー使用削減へのあゆみ

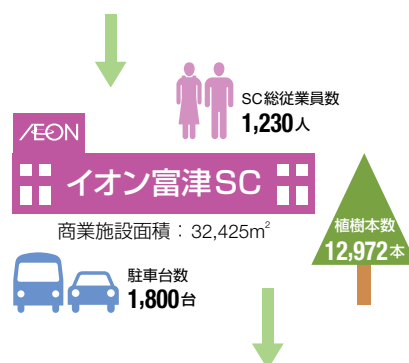
2000年度実績に対して20%の改善を2003年度までに達成できるように目標を立てました。特に、コピー機前に削減手順を明示し、つねに手順通りに行うことをルール化した結果、2002年度比48.5%の大幅改善が実現しました。

コピーは店長会議等で使用するものが多く、これを改善するためにプロジェクターを導入し、コピーの削減を図りました。

2002年度からはさらにパソコンの活用を促進する一方で、事務所内での連絡は回覧板方式をとり、コピーを使用しない体制を整えました。

2003年度は月度別に目標を掲げ、再度全員で課題を共有化し、2002年度比97%と3年連続前年比を下回る結果を得ることができ、今後も活発な取り組みを進めていきます。

IN-PUT	
電気(千kWh)	4,462
ガス	0
重油(千kl)	2,170
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	276
上水道(m³)	24,258
工業用水(m³)	0



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO₂)	8,580
下水(m³)	18,870
廃棄物(t-CO₂)	1,213

イオン下田SC



完全に雪解けたSC周辺をみんなで清掃します



深谷 雅明
イオン下田SC
ゼネラルマネージャー

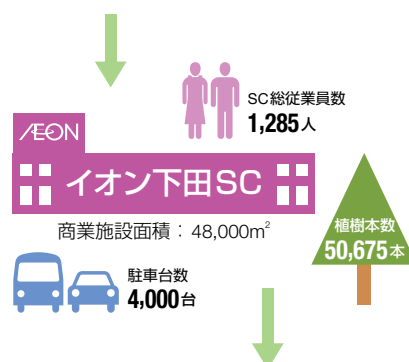
開店日：1995年4月22日
所在地：青森県上北郡下田町字中野平40-1
連絡先：☎0178-50-3200
URL：http://www.aeon-simoda.com

春が来たらみんなでクリーン活動を再開します。

毎月11日はイオングループでクリーン&グリーン活動としてショッピングセンター周辺の国道や町道脇の清掃活動を実施しています。町役場の方をはじめ、SC周辺の企業の皆さまや消防署の方々などにもご協力をいただいています。青森県の下田町は北国ですので、11月から4月の間は雪のために清掃活動を中止しています。雪の消えた4月のごみの量が1年の内で一番多い月となります。

4月12日に専門店さまや従業員など、総勢263名が参加。大勢の皆さまのご協力により、回収したごみの量は、可燃ごみが50リットルの袋5袋分、不燃ごみが15袋分と粗大ごみのテレビが1台。1時間ほどの清掃の後、ちょっとした朝食を食べながら春の陽気を楽しんでいました。

IN-PUT	
電気(千kWh)	3,821
プロパンガス(t)	11
重油(千kl)	3,457
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	618
上水道(m³)	42,749
工業用水(m³)	0



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO₂)	11,499
下水(m³)	42,749
廃棄物(t-CO₂)	2,126

イオン鈴鹿SC



SC内でのVTR紹介



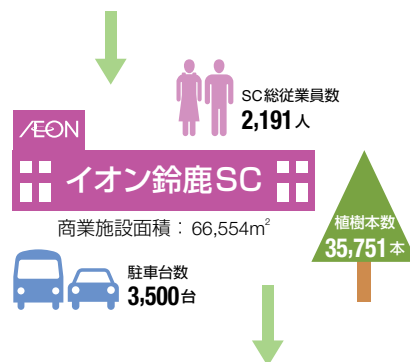
中沢 正春
イオン鈴鹿SC
ゼネラルマネージャー

開店日：1996年11月29日
所在地：三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2
連絡先：☎0593-75-0666
URL：http://www.bellcity-suzuka.com

周辺の小学生との交流を進めています。

周辺小学校の社会見学の一環として、SCの施設や設備などの見学会を行っています。2003年度は養護学校を含めて14校、665名の児童・生徒さんを受け入れ、交流を深めました。見学内容は、VTRによる店舗や施設の紹介、主な設備、防災センターの見学。見学をした後は、生ごみ処理機から生成した「肥料の素」をお持ち帰りいただいています。こうした施設見学の受け入れのほか、専門店の協力を得て近隣中学校の職場体験の受け入れも実施しました。

IN-PUT	
電気(千kWh)	6,817
都市ガス(千m³)	611
重油(千kl)	0
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	474
上水道(m³)	15,686
工業用水(m³)	52,751



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO ₂)	11,095
下水(m³)	0
廃棄物(t-CO ₂)	2,605

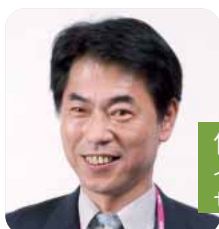
イオン三光SC



飲食店の従業員が現場訓練



重油漏出訓練を徹底しています



佐々木 真人
イオン三光SC
ゼネラルマネージャー

開店日：1996年12月7日
所在地：大分県下毛郡三光村大字佐知1032
連絡先：☎0979-26-8450
URL：http://www.aeonsankou.com

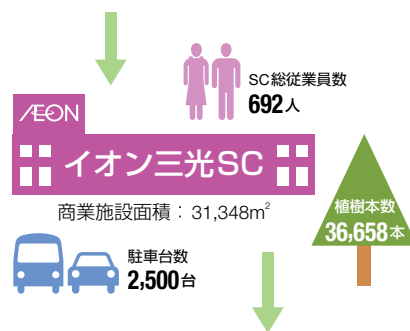
自主的な水質検査・訓練の取り組みで未然にリスクを防止

当SCでは食用廃油に関する緊急事態を想定し、自主的に水質検査・訓練を行っています。運搬時や廃油置き場において油缶が倒れたり、廃棄物保存庫からドラム缶へ食廃油を移す際に、油が漏出することを想定し訓練を行いました。

レストラン・フードコートの従業員を中心に12名ほどが参加。法規制の遵守からはじまり、グリストラップの清掃方法やごみの排出経路の説明などを行いました。訓練の結果、店舗によって清掃状況に差があり、各店舗のグリストラップの清掃を徹底することが今後の課題となっています。

SC内で働く全従業員の意識を高めるために、こうした取り組みを自主的に行うことが大切だと考えています。

IN-PUT	
電気(千kWh)	3,655
ガス	0
重油(千kl)	2
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	724
灯油(l)	31,575
上水道(m³)	23,804
井水(m³)	0



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO ₂)	1,558
下水(m³)	80,827
廃棄物(t-CO ₂)	544

イオン倉敷SC



電力使用量の削減に
貢献するインバーター
制御装置



節電実験に使われた
パッケージエアコン



高橋 章夫
イオン倉敷SC
ゼネラルマネージャー

開店日：1999年9月21日
所在地：岡山県倉敷市水江1番地
連絡先：☎086-430-5200
URL：http://www.aeonkurashiki.com

節電実験により目標達成!

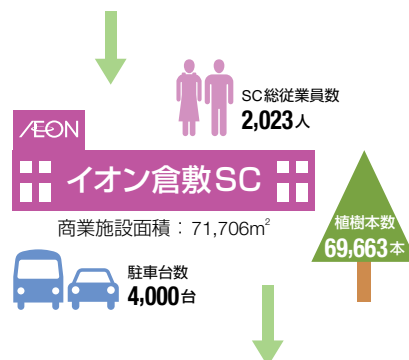
2003年度の省エネルギーへの取り組みとして、パッケージエアコンへのインバーター制御装置を導入しました。それにより、電気使用量の目標を達成。

従来はコンプレッサーの発停(設定温度)により、定温をコントロールし、ファンは室温に関わらず一定速度で回転。冷却水ポンプも同じで温調作動中は、冷却水温度に関わらず一定速回転しています。

今回導入した装置は、一定回転している冷却水ポンプ及びファンを室温(水温)監視をしながら回転制御をし、電力使用量を削減するシステムです。

今回はハード部分の導入による省エネルギーへの取り組みでしたが、環境保全活動の一番大切なことは、従業員全員の意思を共有化しコツコツと積み上げていくことだと思います。

IN-PUT	
電気(千kWh)	9,979
ガス	0
重油(千kl)	5,248
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	342
上水道(m³)	4,962
井水(m³)	75,374



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO₂)	18,677
下水(m³)	59,978
廃棄物(t-CO₂)	3,186

イオン成田SC



成田SCの縁の下のか持ち
生ごみコンポストの再資源化設備



野平 満夫
イオン成田SC
ゼネラルマネージャー

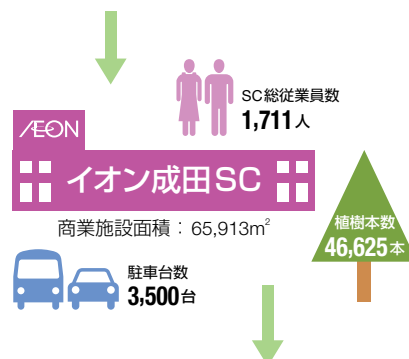
開店日：2000年3月18日
所在地：千葉県成田市土屋山ノ崎680
連絡先：☎0476-23-8282
URL：http://www.117narita.com

お客さまから大好評の 生ごみコンポスト

ごみの削減のために、SC内のレストラン・生鮮食料品売り場等からの生ごみを再資源化設備に投入しています。生成過程での臭いも少なく、機械のシステムも高温発酵して乾燥させるので、数時間で分解。できたコンポスト(土壌改良材)はお客さまへ無料提供しており、地域の皆さまから好評を得ています。さらにSC内でのごみのリサイクル率が8割を占め、つねに高い割合を維持しています。

この一部は「かんらん車」(地域循環型農業をすすめるグループ)が利用し、この土壌で栽培した野菜を「ジャスコ成田店」で販売しています。当初は設置していなかった、遠隔の監視装置を設置し安全対策にも取り組んでいます。

IN-PUT	
電気(千kWh)	6,931
都市ガス(千m³)	6
重油(千kl)	3,543
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	108
上水道(m³)	62,437
工業用水(m³)	0



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO₂)	14,021
下水(m³)	62,447
廃棄物(t-CO₂)	894

イオン岡崎SC



各専門店の店長へスライドなどを使って教育しています。



大場 正信
イオン岡崎SC
ゼネラルマネージャー

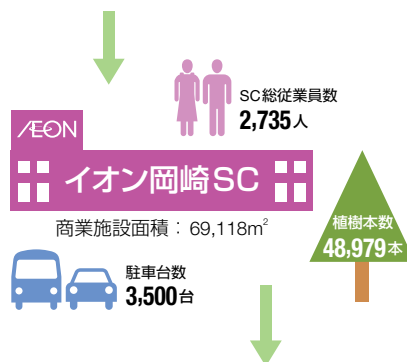
開店日：2000年9月22日
所在地：愛知県岡崎市戸崎町字外山38-5
連絡先：☎0564-59-1000
URL：http://www.aeon-okazaki.com

生ごみ処理の教育を中心に 力を入れています。

飲食店より出る生ごみについては、各専門店の店長を中心に責任者教育を計画的に行っております。例えば、生ごみの排出先や年間の排出量を説明する時間を設けることによりどのくらいの量が自店で出ているかを把握していただいております。

排出量だけでなくそのごみは、どのような流れで処理されているかを説明し、店長を中心に従業員にまで説明できるように図を使って説明しております。異動により店長が変わってもサポートできる体制も構築しています。

IN-PUT	
電気 (千kWh)	4,526
都市ガス (千m³)	439
重油 (千kl)	0
ガソリン (l) (イオンモール社用車)	190
上水道 (m³)	44,571
工業用水 (m³)	0



OUT-PUT	
エネルギー (t-CO ₂)	7,443
下水 (m³)	23,649
廃棄物 (t-CO ₂)	767

イオン高知SC



廃棄物庫内で分別回収しています



植栽にも活発に取り入れています



黒原 大輔
イオン高知SC
ゼネラルマネージャー

開店日：2000年12月23日
所在地：高知県高知市秦南町1-4-8
連絡先：☎088-826-8000
URL：http://www.aeonkochi.com

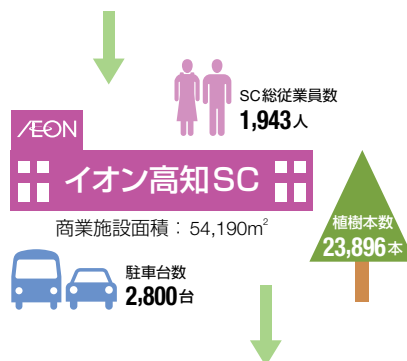
環境にやさしい「竹酢液」を SC内で使用しています。

リサイクルを進めるにあたり、当SCでは回収した割り箸・竹箸を月に1度割り箸リサイクル業者へ郵送しています。郵送した竹箸は竹炭となり、竹炭製造過程で発生した液体を蒸留した「竹酢液」と物々交換。

「竹酢液」には、竹の主要構成成分であるセルロースなどをはじめ、200種類以上の有益な成分が含まれています。殺虫・殺菌効果が「木酢液」の数倍で、タール分が少なく人や植物などに効力があると言われています。

物々交換された「竹酢液」は、事務所の観葉植物の害虫予防に使用していますが、今後は事務所内だけでなく、SC内にある植栽用にも活用していきたいと思っています。

IN-PUT	
電気 (千kWh)	7,248
プロパンガス (t)	0.6
重油 (千kl)	4,063
ガソリン (l) (イオンモール社用車)	591
上水道 (m³)	5,037
井水 (m³)	40,773



OUT-PUT	
エネルギー (t-CO ₂)	15,486
下水 (m³)	45,810
廃棄物 (t-CO ₂)	1,688

イオン新居浜SC



パソコンの上の
確認用シール



それぞれの分別箱を設けています



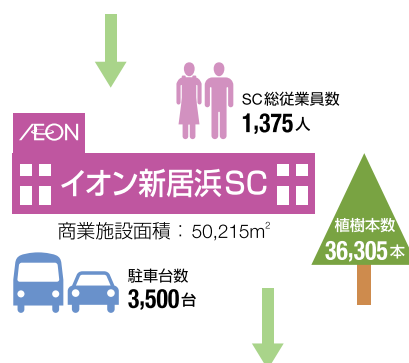
西野 克彦
イオン新居浜SC
ゼネラルマネージャー

開店日：2001年6月30日
所在地：愛媛県新居浜市前田町8-8
連絡先：☎0897-31-0500

誤った印刷をしないのが前提の裏紙利用

ISOの取り組みとして再生紙を利用していますが、誤った印刷をしてしまった用紙は捨てずに裏面を使用しています。その取り組みとして、事務所のパソコンには「プレビュー確認」シールを貼り、その印刷が必要かどうかを確認。最低限必要な印刷のみを実行するように推進しています。それでもうっかり誤った印刷を行ってしまった場合、用紙サイズ別の箱をコピー機横に設け、保管しておきます。ここに回収された紙は、FAX送付状、受信時の用紙、会議室の使用申請書など、事務所内の書類として利用しています。

IN-PUT	
電気 (千kWh)	5,803
ガス	0
重油 (千kl)	622
ガソリン (l) (イオンモール社用車)	366
上水道 (m³)	61,441
工業用水 (m³)	0



OUT-PUT	
エネルギー (t-CO₂)	5,368
下水 (m³)	61,441
廃棄物 (t-CO₂)	820

イオン東浦SC



油の清掃前



清掃後



片岡 健一
イオン東浦SC
ゼネラルマネージャー

開店日：2001年7月24日
所在地：愛知県知多郡東浦町大字緒川字申新田二区67-8
連絡先：☎0562-82-2700
URL：http://www.aeon-higashiura.com

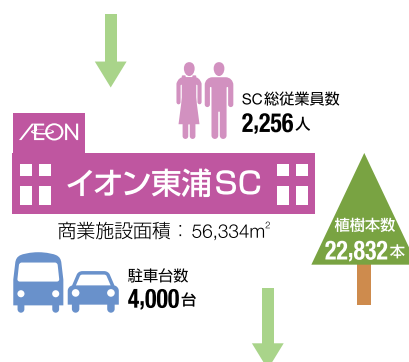
専門店さま別に採取実験を行っています。

自治体より求められる年2回の水質検査のほかに、毎月水質検査を実施しています。特にノルマルヘキサン(動植物油脂類)は、基準(一部地域を除く)の30mg/ℓを下回る28mg/ℓの自主基準値を設定し取り組みを行っています。

この自主基準をクリアするために、専門店さまと覚書を交わし、毎日の清掃・月1回の業者による清掃を行い、管理担当による清掃状況のチェックを行い記録に残しています。

こうした取り組みを通じて、環境への負荷をつねに考え行動することが大切と考えています。

IN-PUT	
電気 (千kWh)	7,746
都市ガス (千m³)	3,097
重油 (千kl)	0
ガソリン (l) (イオンモール社用車)	315
上水道 (m³)	6,858
工業用水 (m³)	79,941



OUT-PUT	
エネルギー (t-CO₂)	8,989
下水 (m³)	171,190
廃棄物 (t-CO₂)	1,972

イオン大和SC



全従業員にわかりやすい廃棄物保管庫内の分別表示



古島 芳雄
イオン大和SC
ゼネラルマネージャー

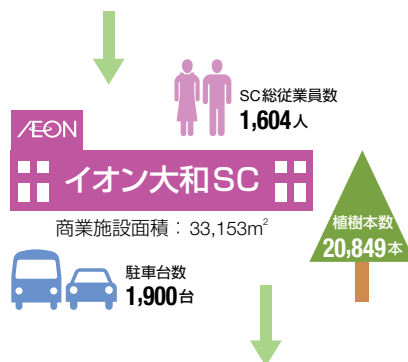
開店日：2001年12月1日
所在地：神奈川県大和市下鶴間1-2-1
連絡先：☎046-200-3000
URL：http://www.aeonmall-yamato.com

専門店さまの独自目標 ごみ分別100%をめざしています。

当SC独自に一般廃棄物の分別率100%という目標を掲げました。

専門店さまにもご協力していただくために、店長会議、業種部会でごみ分別の指導を実施。具体的には、ごみ計量機の研修を店長、従業員へ実施し、分別率の低い店には、排出元を追及して個別指導を行っています。同時にグリストラップの汚泥の排出も、指導を行います。このほかにも、店名ラベルが貼られていない場合も同じ指導を行います。最終的には、廃棄物業者さまからの排出ごみ情報を記録し、SC内の全店に継続的に分別ごみの指導を実施しています。2003年度は92%の分別率となり、今後も目標に到達するために取り組んでいきたいと思っています。

IN-PUT	
電気(千kWh)	8,734
都市ガス(千m³)	3,017
重油(千kl)	0
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	944
上水道(m³)	16,090
井水(m³)	65,091



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO ₂)	9,588
下水(m³)	47,280
廃棄物(t-CO ₂)	1,823

イオン高岡SC



定期的にはバキューム引き抜き業務を実施



敷中 博
イオン高岡SC
ゼネラルマネージャー

開店日：2002年9月19日
所在地：富山県高岡市下伏間江383番地
連絡先：☎0766-32-1100
URL：http://www.aeon-takaoka.com

グリストラップの清掃徹底と バキューム義務化

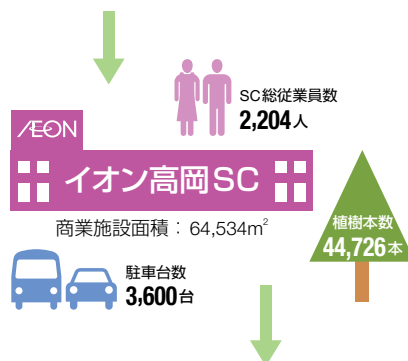
2003年4月の排水水質検査の自社基準値オーバーをきっかけに、グリストラップの清掃の強化を実施しています。グリストラップは専門店街だけで35カ所。容量は30m³から235m³まであります。

清掃は、各飲食店から排出される毎日の食品残さとお取りの徹底を各店に促しました。月1回以上は当社で点検し、堆積沈殿物のバキューム引き抜きを実施するように要請しました。その後徐々に数字が改善し、8月には基準値をクリア。今では安定した数値を維持できるようになりました。

洗浄方法や大きさ、業種により頻度には差があるものの、今では全グリストラップが満足のいく清掃が実施されています。

今後も気を抜くことなく、排水基準値をクリアしたいと思います。

IN-PUT	
電気(千kWh)	11,520
プロパンガス(t)	14
重油(千kl)	0
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	666
上水道(m³)	4,861
井水(m³)	132,025



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO ₂)	12,304
下水(m³)	56,685
廃棄物(t-CO ₂)	1,334

イオン盛岡SC



徹底した回収箱の設置で
リサイクル化を進めています



大村 郁夫
イオン盛岡SC
ゼネラルマネージャー

開店日：2003年8月9日
所在地：岩手県盛岡市上厨川字前湯22
連絡先：☎019-605-3511
URL：http://www.aeon-morioka.com

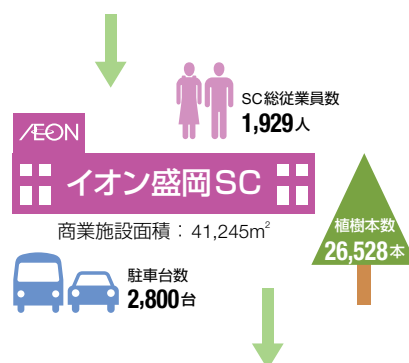
生ごみ分別の徹底、割り箸 回収率の100%をめざします。

SC内のレストランやフードコートから毎日残飯類がごみとして排出されます。私たちのSCでは各飲食専門店に、お客さまが残飯として残していったごみを、洗い場の脇で各種類別に分別を実施しています。

これらのことは、リサイクル化を図り、廃棄・焼却ごみを減少させることが目的です。生ごみはもちろんのこと、ポリの分別、ビン類の分別、さらには回収された割り箸についても紙類の原料として再生化を図っています。その結果、2003年度は回収率が非常に高く、月間平均の重量が400kg以上にも上りました。

日々の業務の一環としてこれからも徹底した業務遂行に取り組んでいきます。

IN-PUT	
電気(千kWh)	5,259
プロパンガス(t)	83
重油(千kl)	41
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	228
上水道(m³)	30,235
工業用水(m³)	0



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO₂)	5,674
下水(m³)	27,513
廃棄物(t-CO₂)	547

イオン太田SC



鴨の棲み家となっているビオトープ



下岸 春雄
イオン太田SC
ゼネラルマネージャー

開店日：2003年12月5日
所在地：群馬県太田市石原町81番地
連絡先：☎0276-47-8700
URL：http://www.aeon-ota.com

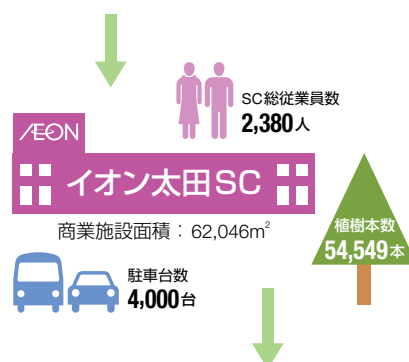
野生動物たちの 憩いの場があります。

私たちのSCの雨水調整池には、この冬3羽の鴨が飛来して棲み家としていました。満水時には約15,000トンの雨水を蓄える人工池ですが、野生の動物や植物が共生しながら循環型自然生態系となっていくように工夫をしています。

周囲の護岸は2～8段の階段状になっていて、それぞれの段には植栽されています。池底部も通常時は約2割が露出して、水辺をつくっています。

これからは、水辺には水生植物を茂らせて昆虫類の憩いの場となるようにし、水中にはカワモズク、エビモなどの水中植物を繁殖させて、小魚やフナなどが泳ぎまわり、そして、それらを餌とする野鳥がたくさん飛来するような自然生態系の池に育てていきたいと考えています。

IN-PUT	
電気(千kWh)	1,873
プロパンガス(t)	11
重油(千kl)	0
ガソリン(l)(イオンモール社用車)	154
上水道(m³)	7,663
井水(m³)	7,084



OUT-PUT	
エネルギー(t-CO₂)	2,997
下水(m³)	17,356
廃棄物(t-CO₂)	405

会社概要データ

経営理念

【基本理念】お客さま第一

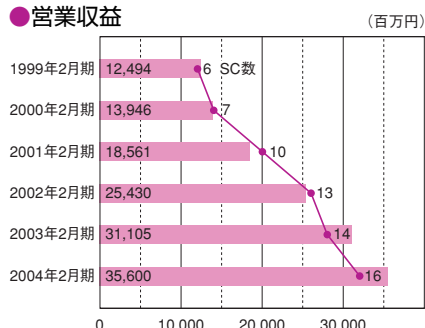
- 一、当社は環境保全並びに社会貢献を企業活動の基軸として積極的に推進する
- 一、創造的ショッピングセンターの開発と運営を通して地域社会の生活と文化の向上並びに商業の発展に貢献する
- 一、時代の変化に対応したリスクマネジメントとサービスの提供をはかり顧客並びに社会の発展に貢献する

イオンモール株式会社

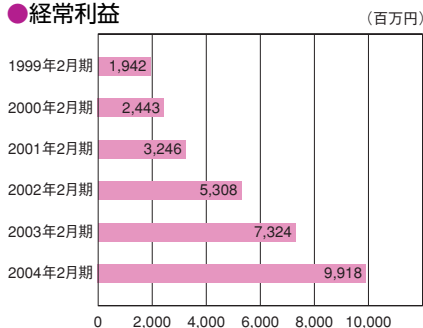
イオンモールはイオン株式会社(旧社名ジャスコ株式会社)を親会社とし、同社の子会社111社及び関連会社32社より構成され、ゼネラル・マーチャンダイズ・ストア(GMS)を核とした総合小売事業を主事業とするイオングループの一員です。イオンは専門店事業、ディベロッパー事業、サービス事業などの拡充に努め、企業集団の多角化を図っています。そのうち当社は、GMS地域一番店であるジャスコを核とするショッピングセンター(SC)を全国に展開し、本格的SC事業ディベロッパーとして、大規模複合型ショッピングセンターの開発・賃貸・管理運営及び保険代理業を行っています。

社 名：イオンモール株式会社(旧社名イオン興産株式会社)
 英字社名：AEON Mall Co., Ltd.
 設 立：1911(明治44)年11月
 資 本 金：77億96百万円
 本社所在地：千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
 従業員数：326名
 事業内容：大規模地域開発及びショッピングセンター開発と運営
 不動産売買・賃貸・仲介
 [千葉県知事(3)第12726号]
 保険代理業(損害保険・生命保険)

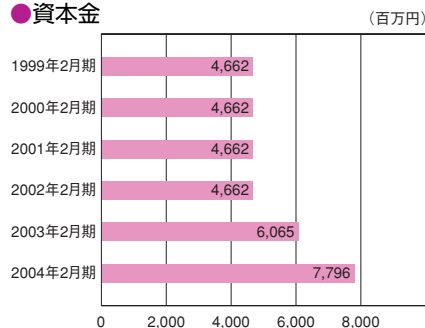
●営業収益



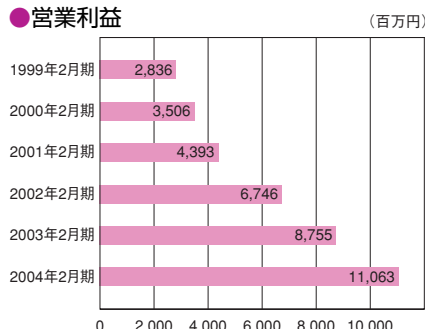
●経常利益



●資本金

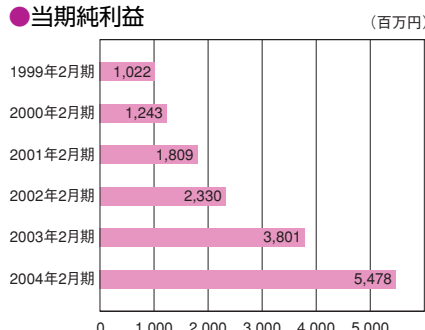


●営業利益



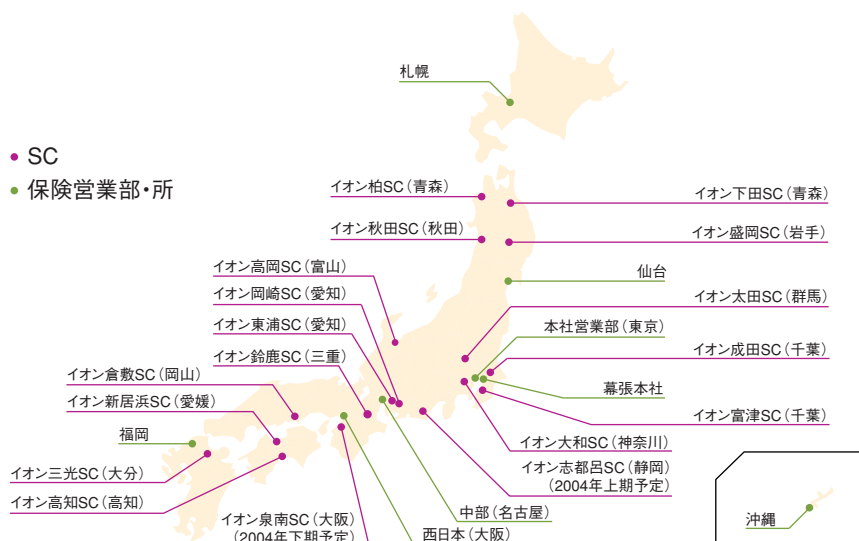
※ 当社は2001年2月期以降より連結決算を行っていますが、業績推移を表示するため、単体の損益にて記載しています。

●当期純利益



全国のイオンモールSC・保険営業部・所

- SC
- 保険営業部・所



(2004年2月20日現在)

表紙メッセージ

イオンモールは、2012年に、日本全国にショッピングモールを50SCつくることをめざし、地域の皆さまとともに、夢のある未来社会を築いていきます。

表紙のモノクロの街には、人々が集い、笑顔や緑があふれる街、空気が澄み、動植物とも共生している街など、さまざまな街がイメージできると思います。

ぜひ、あなたの理想の色をつけてみてください。

イオンモールは、皆さまと夢と感動をわかちあうために毎日進化し続けます。



「イオンモール2004 環境レポート」の内容や、
当社の環境保全活動をはじめとする社会貢献活動についてのご質問・ご意見は
下記の環境・社会貢献・ISO事務局へお寄せください。

イオンモール株式会社

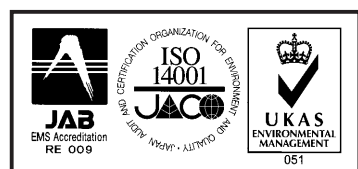
環境・社会貢献・ISO事務局

〒261-8539

千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1 イオンタワー7階

TEL 043-212-6476 FAX 043-212-6736

イオンモールホームページ <http://www.aeon-mall.net>



イオンモール株式会社は、環境マネジメントの国際規格であるISO14001をマルチサイト一括方式で2001年4月18日に取得しました。

